



森のなかま

2019年 12月号

NO. 140 (継続285号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

“2019 かわさき市民祭り 街頭キャンペーン”

日時：11月2日(土)、11月3日(日祝)、11月4日(月休)10:00~16:30

場所：川崎市・川崎区富士見公園一帯(私達の場所は川崎競輪場西スタンド2F)

参加者：577名 インストラクター：延べ43名 財団：延べ5名



< 統括インストラクター 森本 正信 5期 > (写真撮影:松本保① 江頭淑子③ 星野澄佳③)

来場者規模 50 万人を誇る川崎市での最大のイベントに、今年もキャンペーン系で出店。紙芝居と、人気のコンテンツであるどんぐりトトロで、「かながわ水源の森林づくり」を訴求出来て良かった。

来年は、神奈川県での法人税収落ち込みにより、出店費のかかるイベントには逆風となりそうで、新たなビジネスモデルの構築が急務となっている。森林環境譲与税やSDGsなども視野に入れながら、更なる工夫をこらしたい。



会場 レイアウト

紙芝居・
水源林
涵養実験



工作
コーナー



丸太切り
体験

受付

プレゼント

募金



インストラクターの手作りの品



<森林部会>

間伐研修会②

日時：2019年11月9日（土）9：30～14：45 晴

場所：湯河原町鍛冶屋 日本触媒の森

講師 水津⑨ 石川⑫ 江上⑬ スタッフ 辻村⑨ 岩田⑭

研修生：10名

間伐研修会② 11月9日 参加者名簿

No	期	氏名	備考	No	期	氏名	備考	No	期	氏名	備考
1	9	水津 敏	講師	6	5	滝澤 洋子	研修生	11	13	宇田川 祐美恵	研修生
2	12	石川 裕一	講師	7	9	波多野 慶	研修生	12	13	北村 貢	研修生
3	13	江上 徹	講師	8	10	大澤 斗志朗	研修生	13	15	石垣 桃栄	研修生
4	9	辻村 寿	スタッフ・用具運搬	9	11	佐藤 義和	研修生	14	15	大見 文夫	研修生
5	14	岩田 典義	統括リーダー・用具運搬	10	11	湯浅 鉄男	研修生	15	15	小野寺 孝夫	研修生

<記 宇田川 祐美恵 13期 写真提供 岩田 典義 14期>

待ちに待った間伐シーズンの到来です。前回（10月20日）の「間伐研修会①」や他活動の台風被害による中止が相次ぐ中、幸いにも被害の少なかった湯河原町鍛冶屋（日本触媒湯河原万葉の森）にて、県民参加の森林づくりイベントと同時開催となりました。

今回は選木から伐倒、玉切りした材の処理までの一連の流れをほぼ一人一本ずつ通しで行う集中した研修となりました。手鋸で伐るにはなかなか手ごわい径のヒノキです。日常的に森の手入れを行っていても、大鋸を自分の手で挽く機会は意外とないもので、頭で理屈を理解しているつもりでも実際にまっすぐ挽くことがままならず、姿勢の大切さ等を再確認することが出来ました。

また、通常のインストラクター役を務める活動では使用しない、より高い枝へのロープ掛けが可能となるスローラインの使用も今回の特色です。もやい結びの他にもロープとスローラインの紐を結ぶ為のハーフヒッチ（ひと結び）を二回作り、最後にクローブヒッチ（巻き結び）で留める手法やスリップドフィギュアエイトノット（引き解け8の字結び）も使用しました。ベテラン陣の自前の道具も刺激的で、道具や手法、技術は基本的な部分は変わらなくとも、日々進歩してゆくことが感じられ、大変有意義な一日となりました。

様々な技術、知識を学ぶことは喜びであり、学びの機会を与えられていることに感謝するとともに、間伐作業の楽しさ、大切さを安全に伝えることが出来るよう、精進してまいります。



森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

シロアリは木造建築物を食べて柱や土台を骨抜きにしてしまい、家屋を破壊する元凶ですが、そのえさとなるものは木材に大量に含まれているセルロースやヘミセルロースです。しかしシロアリ自体はセルロースを分解する能力が低く、シロアリの消化管内に生息する共生原生動物が持つセルロースやヘミセルロースの分解酵素の助けを借りて、低分子になった糖を養分として消化吸収しています。

シロアリは木質系のものだけをえさとするわけでもなく植物質ならばどんなものでもえさとしてしまいます。サトウキビなどの植物に限らず衣類や紙類などもえさの対象となります。時には地下ケーブルやプラスチックなどのセルロースを含んでいないものまで害を受けることもあります。この場合には植物質のえさに到達するための道を作るために害を及ぼすのです。

わが国では 21 種のシロアリが知られています。中でも木造建築物に大きな被害を与えるのはイエシロアリ、ヤマトシロアリです。ほかには奄美大島琉球諸島に生息するダイコクシロアリ、近年米国から木材と共に入って来たアメリカカンザイシロアリがいます。イエシロアリは関東以西の温暖地域に生息しますが、ヤマトシロアリは全国殆どの地域に生息しています。

シロアリが生息するには水分が必要です。ヤマトシロアリは湿気の高いところに生息し、その場所の木質構造物を食い荒らしますが、イエシロアリは水を運ぶ能力を持っていますので乾燥している木材にも害を与えます。シロアリは見えないところで音も立てずに柱や土台、時には天井にまで害を及ぼすこともあり、気がついた時には大きな害を被る事になります。

シロアリはどんな木でも食い荒らすかというところでもありません。苦手な木があるのです。一つには硬い木です。かじろうとしても歯が立たなければかじるのをあきらめます。そんな木にはカシやイスノキといったものがあります。マツ材はシロアリが大好きな木なのでシロアリを飼育するときにはえさ木としてマツ材を与えますが、そのマツにしても成長が早く軟らかい春材(早材)は食べますが、成長が遅く硬い夏材(晩

第32回 シロアリにも
好き嫌いがある

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

材)の部分は食いち残しますので、丸太を見た時に年輪の間に晩材の部分だけが同心円で丸く残ります。

シロアリがもう一つの苦手なもの、それは木の抽出成分、それも特に殺蟻成分です。例えばヒノキの辺材は心材に比べてシロアリに圧倒的に多く被害されます。それは心材の方が抽出成分、特に抗菌性や殺蟻性の成分を量的に多く含んでいるからです(表1)。成分量が少なくても殺蟻性の強い成分が含まれている木材は抗蟻性を示します。例えばヒノキチオールのような強い殺蟻性成分を含む青森ヒバなどです。木材で比較的高い抗蟻性を持つものには、イヌマキ、カヤ、モッコク、サワラ、ヒノキ、コウヤマキ、センノキ、センダンなどがあります。それらはいずれも殺蟻性あるいは抗蟻性の抽出成分を含んでいます。そしてその中でもテルペン類、フェノール類、サポニン類などが特に活性に関与しています。

木造建築物を食い荒らすシロアリはとんでもない悪者の印象を受けますが、シロアリの中には巣の中にキノコを育てる種類もあり、そのキノコを人が食料として利用しているところもありますし、高カロリーであるシロアリそのものをアフリカや東南アジアでは食料としているところもあります。また、最近のバイオエネルギーの開発に関連してシロアリの共生微生物由来のセルラーゼを利用してバイオエタノールやバイオガスの生成の研究も行なわれています。悪いところばかりでなく、良いところもある、それを見つけて利用しながら生き物と共生することもこれからの地球には必要なことです。

ヒノキ材はシロアリに強い
小ブロックの重量減少率(%)



試験材	重量減少率(%)
ヒノキ心材	1.21
ヒノキ辺材	19.36
リュウキュウマツ辺材	20.21

イエシロアリ職蟻30頭、兵蟻3頭、25-28℃で2週間飼育

(イラスト 広報部 加藤 優美 ⑮)

活動短信

今回の掲載は R1 年 9 月 10 日～10 月 10 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

12 月（旧暦十一月）の二十四節気

大雪 12/7 頃 冬至 12/22 頃
今年は暖冬予報です。この日から日が長くなる事から古くは一年の始まりでした。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば 1 枚添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)
場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 神奈川県 環境農政局 緑政部
水資源環境保全課 水源の森林推進グループ
財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師
スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様
例 川崎市公園緑地協会・XX 様
イ インストラクター (○数字:期) 研 研修枠
以下の本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 横浜市立浅間台小学校 間伐体験

日 令和元年 9 月 10 日(火) 10:30～14:00 晴
場 相模原市緑区 長竹承継分収林
参 49 名(先生 6 名 小学 5 年生 43 名)
財 内田様
イ L 牧石⑭ 柏倉④ 小野⑦ 渡辺⑦ 西出⑫

関東を中心に記録的な猛威を振った台風 15 号が通過した翌日、9 月 10 日(火)長竹承継分収林にて横浜市立浅間台小学校 先生 6 名、5 年生 43 名で間伐活動を実施。活動実施に当たり、台風が通過した 9 日の午後、活動場所の長竹継承分収林の安全確認を行いました。林内入り口付近の倒木と、林内の数か所の倒木がありましたが、活動に問題なしと判断し、予定通り実施しました。

当日は 35 度の猛暑日となり、熱中症に注意し、こまめな水分補給と休憩を取りながら間伐活動、コースター作成、森林講話を実施。

コースターの作成は、玉切りした間伐材にインストラクターが班の人数分の切り込み(1/2 程度)を先に入れ、子供たちに切っていただき作成しました。当日は午後から雷予報が出ていた為、当初の予

定より 30 分早めに終了し、愛川ふれあいの村に向かう頃には周囲も暗くなり、雷鳴も聞こえてきました。

終わりの会では、舟山先生より、予定を 30 分早めた理由(午後より雷注意報)を説明していただき、無事終了しました。(記 牧石 稔⑭)

◆ 横浜市立西前小学校 間伐体験

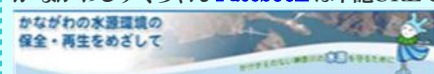
日 令和元年 9 月 11 日(水)10:00～14:00 曇りのち晴
場 相模原市緑区 長竹承継分収林
参 80 名(大人 10 名・子供 70 名)
財 内田様
イ L 小野⑦ 柏倉④ 佐藤⑤ 内野⑨ 高橋⑨ 松本⑪ 西出⑫ 木村⑭ 牧石⑭

残暑の厳しい中で 5 年生が 8 班に分かれてヒノキ(25 年生位)の間伐体験をしました。枝打ちが済んだ林内は生徒たちにも「手入れされている森林」と感じたようでした。

「なぜ間伐をするのか」植栽から一連の人工林保育を説明し、伐る木には命があり、その命を学習のためにいただくこと、大変危険な作業であることを話しました。選木した理由を説明し、生徒に木に背中を当てて伐倒方向の確認をしてもらい、ロープ掛けが終わるといよいよ受け口です。チョークの線に沿って切のですがノコギリに力が入り過ぎて思うように動きません。少し手を添えてやると上手く動きます。コツをつかんだら次に交代して受け口が完成。追い口はすぐに切れて、試しに全員でロープを引いたら倒れかけたので更にロープを引くと上手く目標の所に倒れました。伐倒した木の下で空を見上げ、日がさす空間ができたことを確認しました。枝払いや枝打ちが済んでいるのでわずか、玉切りをして昼食です。

食べ終えた生徒からコースターづくり、ノコギリの使い方が上達しています。全員がコースターを作り終えたので片付けをし、生徒に作業中に気づいたことを質問しながら「人工林」「森林のはたらき」「林業」「神奈川県の水」などの話をしました。よく予習をされていて質問も多くありました。最後に感想を言いあって間伐体験を終えました。(記 内野 ミドリ⑨)

かながわしずくちゃん Facebook は下記 URL で見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ いすゞ自動車株式会社

第3回やどりき水源林保全活動

日 令和元年9月14日(土) くもり後小雨
 場 やどりき水源林
 参 32 名
 県 水源環境保全課 村田氏 末広氏
 イ L 上田⑩ 西出⑫ 石井(裕)⑮ 坂井⑮ 野牛⑦
 牧石⑭ 西岡⑭ 山崎⑦

やどりき林道の法面工事のため、通行規制があったため入場に戸惑いがあったが、ほぼ予定通りの活動開始が出来た。気温も最盛期の暑さではなく曇天で活動しやすい環境であった。

県担当者からのあいさつの後、活動のスケジュールと安全留意事項について総括リーダーから説明し、ストレッチ体操で体をほぐし活動を開始した。

間伐班の4グループはインストラクターと林道を上り倉庫横で道具を装着し現場に向かった。

①、②グループは林道終点からさらに雨山峠への登山道を登り、比較的斜面の急なところでの作業となった。

③、④グループは成長の森への通路脇とボランティアA作業道わきに選木されたヒノキの伐倒を行った。

終了時間の指定があったためタイトな時間の中での作業となった。③、④グループは現場へのアクセス時間が短いため時間に余裕をもって作業を完了させることが出来たが、①グループは林縁の木を選木したため上部で蔭がらみになっており時間内に伐倒することが出来なかった。また②グループもあと片付けができない状況で時間切れとなった。最終処理は昼食後インストラクターが処理した。

水生生物観察はカジカの採取のみで水生昆虫の採取は出来なかったが、事前に展示用に採取していたものを観察して楽しむことが出来た。

クラフトは少人数であったが時間を十分に使い実りの秋にちなみ植物の種を取り揃えて説明したり、葉巻笛やどんぐり工作をしたりして過ごした。

作業終了ごろから小雨が降りだし、昼食は各々雨宿りをしながらとなった。予定通り13時に閉会となり活動は終了した。事故けがなどはなく、間伐の後処理が終わったのは14時ごろになった

(記 上田 啓二⑩)

◆ 県民参加の森林づくり (ササ刈り)

日 令和元年9月21日(土) 08:30~14:30、曇り
 場 小田原市仙石原
 参 36 名 (うち子供2名)
 財 大木様、内田様
 看 青木様
 スタッフ 小田原市森林組合 2 名
 イ L 松本⑪ 永野⑥ 高橋③ 小沢⑨ 杉崎⑩
 松山⑩ 北村⑬ 真貝⑪ 山崎⑦ 小笠原⑩
 羽鳥⑭ 鈴木⑧ 上田⑩ 飛田⑮ 佐藤⑤ 西村⑮

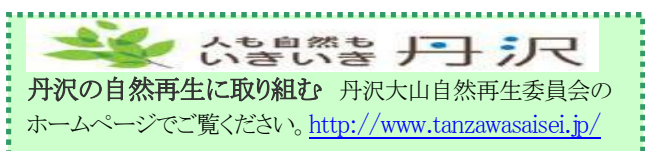
J R 小田原駅北口の北条早雲公の銅像下に8時40分に集合。台風17号の影響で午後は雨との予報もあったせいか、事前申し込み50人に対して32名と少し寂しい参加者数でしたが、参加者全員元気にバス3台に分乗し、箱根仙石原のポーラ美術館脇の駐車場へ移動。オリエンテーション&準備運動実施の後、作業現場の小塚山トラスト緑地へ向かい、道具を受け取り1~5班の各担当エリアに分かれて作業を開始しました。



現場は去年も作業した場所で、引き続き笹の壁を切り崩すという作業でした。参加者殆どの方が笹狩り体験者でしたので作業はスムーズに進みましたが、笹の壁は非常に分厚く、また時々枯れ木も作業の邪魔をするなど、作業開始時の「沢までたどり着きたいですね」という希望は達成できず、来年に持ち越しとなりました。それでも、振り返ってみると、8~10mは笹の壁が除去できており、素晴らしい成果でした。来年も頑張りましょう。

作業の後は箱根高原ホテルへバスで移動し、駐車場で昼食&ミーティングを行った後、皆様お待ちかねの温泉にのんびり入浴し、汗を流してさっぱりしました。その後、またバスに揺られて小田原駅に戻り、解散となりました。結局、心配された雨は全く降らず、温泉から出たころには薄日も差す、作業日和の一日でした。

なお、小田原駅の北条早雲公は、小田原市で事前キャンプを行ったラグビーオーストラリア代表チームのワラビーズゴールドのジャージを着ておられ、少しおしゃれな様子でした。(記 西村 充弘⑮)



◆ 横浜市立市沢小学校 愛川宿泊体験学習 間伐体験

日 令和元年 9 月 24 日(火) 10:00～14:50、曇り
場 相模原市緑区 長竹承継分収林
参 71 名(小学5年生 生徒 63 名、教師等 8 名)
財 内田様
イ L 松本⑪、佐藤⑤、小野⑦、渡辺⑦、小沢⑨、
 西出⑫、松石⑬

台風の影響で天候が不安定も朝の暑さから活動時はちょうどよい気候となった。午後に俄雨の恐れがあったので現場予定を 30 分短縮した。また、現場に行く途中のバスルートに服部牧場経由とした。

9:15 インストラクターは平日なので愛川ふれあいの村第 1 駐車場に集合し打合せ等を行い、生徒の到着を待った。

10:00 生徒たちはバス 2 台で到着 トイレ後集合し、芝生の広場ではじまりの会で顔合せ、インストラクター紹介、作業概要や安全事項を伝える。長ズボン、長袖シャツ等装着していない人がほとんどだったので装着させた。(持ってこない子もいた) そんな事を出発時間は遅れたが、愛川ふれあいの村出発。服部牧場経由(次の日の活動場所で生徒からは歓声があがる)

11:00 頃、長竹到着 道具の配布／装着し 6 班で作業現場の山に入る。

11:15～13:00 間伐作業 時間内に作業完了
(コースターづくりも)

- ・ 森林の大切さ、間伐体験の大切さ等、作業前、後で説明。
- ・ 間伐作業 各班 1 本 伐倒、枝切り、玉切り、コースター作り 各人 1 個



13:00～13:45 昼食 林内で班ごとに昼食 食事しながら質問・意見など話合。

13:50 下山開始 山の入口(農道)迄降りる

14:00 道具の確認／整備／回収。

14:10 生徒バス乗車(インストラクター同乗)

14:25 ふれあいの村到着 生徒達はお泊り準備、

インストラクターは振り返り／反省会

14:40～14:50 体育館でお別れの会 会終了後インストラクター解散

**今回は実作業時間を 1 時間 45 分、昼食を 13 時からとしました。インストラクターの年齢構成も含め、適正時間だったと皆さんの声を頂きました。
 ヤマビル被害 3 名 (記 松本 保⑪)

◆ 県民参加の森林づくり 植栽

日 令和元年 10 月 5 日(土) 9:40～16:00、晴
場 箱根町仙石原
参 96 名
財 豊丸課長、大木様
看 青木様
スタッフ 箱根町観光課 遠藤様
イ L 江上⑬ 菊地① 小野⑮ 渡部⑦ 辻村⑨ 吉川⑮
 大見⑮ 末原⑮ 藺田⑬ 齋藤⑥ 竹内⑮ 杉崎⑩ 野村⑭
 鶴井⑮ 小野寺⑮ 水口⑨ **研** 佐々木⑮

活動当日は 30 度近い気温になり、10 月とは思えない気候となりました。バスを湿生花園第 3 駐車場で下車し、オリエンテーション後現地まで 1 時間弱の徒歩移動。ハイキング気分で散策を楽しまれた方もいましたが、ご高齢の参加者の方でかなり遅れて到着される方もいました。

参加者のうち 40 名近い方が初心者とのことで 5 班に分かれての作業では、ベテランの方は慣れた手つきで作業し、初心者の方にはインストラクターから鉋の持ち方など基本的なことから説明を受けて作業をしました。今回はあらかじめ各班の活動場所に苗(ヒメシャラ、イロハモミジ、ヤマザクラ、ヤマボウシ)が運搬されていましたが、苗が足りなくなった場所には他の班の協力を得て苗が運搬され、用意された 800 本は全て植え付けられました。

昼食、ミーティング後はバスにて箱根高原ホテルへ向かい入浴。参加された方は暑い中での作業でしたが、温泉で汗を流しリフレッシュされたようでした。
 (記 吉川 久子⑮)



緑の募金
シンボルマーク



緑の募金キャラクター
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
 全国で 5 番目／NPO 法人で初めて委嘱されています。

◆ 第 10 回わくわくの森 (株式会社和久環組)

日 令和元年 10 月 8 日(火)10:00~15:00 曇
 場 やどりき水源林
 参 13 名
 講師 ヨガ講師 1 名
 イ L 野牛⑧ 小野⑦ 松本⑧ 上田⑩ 大橋⑪
 水上⑬

当初より参加者が減ったものの、若い社員が汗を流し、森を満喫し、非日常の体験の中でいつもと違った交流をしていたようであった。

プログラム内容

- ①丸太の階段作り (間伐材から材料を探し、切り出して運搬、わくわくの森看板横に踏み台を作る)
- ②クラフトはコースターとフォトフレーム (森の散策で飾り付けの材料を集め、集会等の脇でボンドやグルーガンを使って思い思いの作品をつくる)
- ③森林ヨガ (外部講師、下見時には林の中の場所を想定していたが、天候、日差し等考慮し河原近くで水の音を聞きながら実施した)

昼食に「鹿シチュー」を手配しており、インストラクターも頂いた。フォトフレームの台枠はわくわくさんが自分達で用意したもの。事前準備からイメージを膨らませることが出来たように思う。

階段作りに併せて、手の空いたものが、周辺の草刈や、樹木の枝剪定をしてわくわく看板周辺を整備した。看板後ろのフィールドの整備まで手がかけられると良いと感じた。昼休みに水辺まで降りた。次回は滝まで散策の要望もあり。階段の登り初めをして、わくわくの森看板で集合写真を取り、事故怪我無く定時に解散した。 (記 大橋 聡⑪)

◆ 内郷小学校事前授業
(森林の間伐体験の為に)

日 令和元年 10 月 3 日(木)
 場 内郷小学校 相模原市緑区寸沢嵐833
 参 同校 5 年生 担任教師及び生徒 23 名
 イ 小野⑦

10 月 10 日にやませみ及び大日野原林地にて実施予定の間伐研修に関しての事前授業を 同校を訪問して実施した。

当校は創立 150 年近い歴史ある学校で校庭には土俵が有り時には相撲大会も行われているようだ。

現在は 100 人を切る生徒数だが 5 年生は最も多く 22 名で当日は全員元気な顔で授業に臨んで頂いた。

授業では一方通行に陥らない様に適宜質問などを交え生徒さんからの発言の機会を多くすることを心掛けた。森林の働き/日本の林業の現状と課題/ 世界、日本、神奈川県 of 森林率/森林を作り育てるサイクル等の項目にて授業開始、森林講話の画像も見ながらの授業。苗木を植えてから伐採までに 50 年以上の長い年月を要する仕事で作業者の高齢化や安い外国産材の輸入などで日本の林業が衰退している現状を説明。持参の伐倒俯瞰図にて間伐作業の進め方を解説、間伐作業が極めて危険な作業である事を強調して、当日はインストラクターの注意事項をしっかり守り安全で楽しい体験日となる事をお願いして授業終了。

拙いにわか教師役でしたが明るく元気な生徒さん方に癒された 45 分間でした。

(記 小野 幸広⑦)

◆ 内郷小学校 森林の間伐体

日 令和元年 10 月 10 日(木)
 場 やませみ・大日野原林地
 参 内郷小学校 5 年生 担任教師及び生徒 25 名
 スタッフ やませみ職員 5 名・看護師 1 名
 イ 佐藤⑤ 小野⑦ 内野⑨ 松石⑬

定刻 9 時半にははじめの会、3 班編成としてインストラクターの自己紹介、簡略な注意事項を伝達の後ヘルメットを装着して間伐場所へ出発。最初は急な登りだが準備運動に格好的林内コースである。

作業場所の下部にて枝打ち鋸を配付、班ごとの共通用具である間伐鋸・ロープなども配布して班別に担当場所へ向かう。各作業地では間伐の意義と必要性を説明したのち、この作業の危険性について改めて注意事項を徹底して作業スタート。

対象木へのロープ掛け、スリングと滑車の取付けから切り込み開始。各班とも現場は緩傾斜地で足場は良好なるも対象木がφ18~20cmの大径高木のため伐倒方向に細心の注意を払う。一部掛かり木も発生したがスタッフの力添えも頂き無事伐倒出来た。

倒れた瞬間は期せずして拍手と歓声が林間に響き渡った。枝打ち、玉切り、コースター作りも順調に進み林外の広場にてお弁当タイム。やませみへの帰着後のグループミーティングでは、気持が良かった、またやりたい等の意見が多かった。生徒の皆さんにとっても貴重な体験となったであろう。

このような学習を採択頂いている学校関係者に謝意を表するものである

(記 小野 幸広⑦)

やどりき水源林ミニガイド

やどりき水源林の状況

やどりき水源林は10月に立て続けに襲来した台風15号と19号により大きな被害を受けました。水源林内の遊歩道は径路の崩落や架橋の脱落などにより寸断されてしまいました。また、集会棟広場の一部が寄沢の濁流により損壊されています。例年であれば、12月初めまで紅葉を楽しめる「やどりき水源林」ですが、残念ながら今年は安全に利用できる状況ではありません。

詳しくは、下記をご覧ください

●問合せ:

・神奈川県ホームページの

「やどりき水源林」

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/yadoriki.html>

・(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

・当会ホームページ

やどりき水源林紹介

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html>

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当: 井出恒夫)

編集後記

★C Mで枕草子の『秋は夕暮れ夕日のさして〜』と有名なフレーズが流れてましたが、職場で富士山をバックに空が刻々と色を変えていくのは見ていて飽きません。仕事でなければずっと見ていたいです。(笠原)

★先の台風で活動の拠点のやどりき水源林が大きな被害を受けた。新たな拠点や新たなプログラムなど質の向上を図る良い機会とも言える。良い知恵を持っているメンバーは多々いるのだから。(吉田)

★やどりき水源林だけでなく、高尾山や奥多摩でも台風被害の影響で今なお通行止めの箇所が多くあります。行く前にネットでよく確認してから行きましょう。(阿藤)

★10/5に風切り水源林の区割りで昔の運動感覚指令が能より筋肉にいき山坂を駆け上がったところ不覚にも右足脛の肉離れ(こむら返り部)をおこしてしまい、テーピングで騙しつつその後の活動に参加し、ようやく治ったかなという感じですが、油断するとぶり返すので注意しながら森林活動をしていきます。(松本)

★千葉県の上総は台風の爪痕が深く残ったままです。ブルーシートが掛かったままの屋根が、被災直後から全く減っていないのです。このあたりの農家も高齢者が多く、再建の意欲を持ち続けるのが厳しい状況です。長い目で支援して行かねばと思います。(竹内)

★今月号もまだ台風の被害を引きずっています。(黒川)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。



◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: cherril@gk9.so-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝

Tel: 045-433-4413

Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp